

血吹雪元祿繪卷 (十卷)

原作脚色 連監督者 帝キネ時代映畫
撮影者 中島寶三
主演者 市川玉太郎 森川静子

第三百九十五號

紹介 義士傳は講釋師の米櫃となつたが、同時に日本映畫の米櫃にもなつた。四十何人かの義士たちの鎧々傳が更に裏表に分れて、ますます夥しい數のマゲ物が生れてゐる。その中で唯だ岡野金右衛門に關する物語だけは、どういふわけがまるで映畫化されたことがなかつた。その不思議さを打ち破つて、「血吹雪元祿繪卷」は岡野金右衛門を主人公とした映畫であつた。而も此の原作は、梶川與三兵衛、清水一角、俵屋芝藩なども引つくるめて、實説さは違つた新しいものとなつてゐるのである。従つてそこに出来る多くの人物の氣持が、色々な形で説明されなければならなくなつてゐる。そのためどうしても間口ばかり廣くて案外奥行のないものにならざるを得なくなつてゐる。實説でないといふことは差支へないにしても、そのためその映畫がゴタゴタしたものとなるのは困つたことだ。

原作脚色監督は中島寶三であるが、この映畫には普段程の重厚さを彼に見出すことは出来なかつた。金右衛門とお花との宿命的な戀、それすら情緒的には描かれなかつた。これは一體誰の責任か。市川玉太郎以下、森川静子、雲井龍之介、團圓慶、實川延笑、等々、俳優はいづれもドンガラリの背くらべた。和山滋興行價値——帝キネ時代劇スターが總動員してゐる。漫然見てゐれば面白い。(四月八日 常盤座)